

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

中日の近代哲学・思想の交差とその実践

The intersection between modern Chinese and Japanese philosophical thoughts and their practices

2. 研究代表者氏名

廖 欽彬

Liao Chin-ping

3. 研究期間

2023年4月-2026年3月(2年目)

4. 研究目的

本研究は、1910～30年代における、中日近代哲学・思想の交差と実践を考察することを目的とする。その際、1) 西洋哲学の受容と展開、2) 保守派と革命派という図式での検討が方法的特徴となる。

中国については、実証主義者の自由民主主義、新儒家の文化更新主義といった思想の流れにおける西洋哲学や諸帝国のイデオロギーへの対抗に注目して、その中国的特色を掘り起こす。日本については、「京都学派」や桑木厳翼らの哲学に焦点をあて、その西洋哲学への対抗として打ち出された日本の特色を浮き彫りにし、中国哲学の特徴と比較検討する。

以上の保守派の流れに対して、本研究では革命派にも視野を広げる。日本のマルクス主義者や、彼らから学んだ中国革命家たちの思想と実践を中心に、中日マルクス主義哲学の発展も研究の射程に入れる。これにより、中日における保守派の更新主義や日本主義の異同と、革命派の共産主義・社会主義の異同を同時に検討し、その特徴を比較検証する。

The purpose of this study is to examine the intersection between modern Chinese and Japanese philosophical thoughts and their practices during the 1910s and 1930s. The methodological characteristic of this study is to examine under the schema 1) of the reception and development of Western philosophy, and 2) of the conservative school and revolutionary school.

In the case of China, we will focus on the opposition to Western philosophy and the ideologies of the empires in the streams of thought such as liberal democracy of positivists and cultural revivalism of New Confucians, and unveil their Chinese elements. In the case of Japan, we will focus on the “Kyoto School” and the philosophy of Kuwaki Genyoku and

others, highlight the Japanese elements of their opposition to Western philosophy, and compare them with the characteristics of Chinese philosophy.

In contrast to the conservative school mentioned above, this study will broaden its perspective to the revolutionary school. The development of Chinese and Japanese Marxist philosophy, focusing on the thoughts and practices of Japanese Marxists and Chinese revolutionaries who learned from them, will also be included in the scope of this research. In this way, we will examine synchronically the similarities and differences between revivalism and Japanism of the conservation school, as well as between communism and socialism of the revolutionary school in China and Japan, and examine their characteristics.

5. 本年度の研究実施状況

今年度は8回にわたって共同研究会を実施した。うち6回は班員を中心とした専門性の高い研究会を実施した。研究班テーマに相応しく、「左右」の思想傾向だけでなく、哲学・宗教・文学など分野横断的なテーマを設定し、各分野の専門研究者を招いて、中日を核とする東アジアの思想・哲学に関する活発で濃密な議論が毎回展開された。以上に加えて2回の研究会は一般市民にも開かれた公開かつ規模の大きな研究会として実施した。うち1回は北京で北京大と人文研の共催の形で「二十世紀日中人文科学研究の再考察」をテーマとして北京大学を始めとする中国各地の大学・研究機関と日本から京都大学、東京大学から研究者が報告・討論を行った。もうひとつは人間・環境学研究科学術越境センターとともに主催した「西田幾多郎没後八十周年記念シンポジウム」である。これは日本各地から西田哲学研究者が集まり、越境をテーマとして西田哲学の現代的意義と応用について報告・討論を行った。その中にはAIやケアと哲学との関わりを論じた報告もあり、異分野融合を通じた新学問分野開拓の展開もみられた。なお、本研究班と関わりの深いシンポジウムとして人文研・求真会主催の「田辺元生誕140周年記念シンポジウム」も実施したことを附言しておきたい。

6. 本年度の研究実施内容

2024.4.15 第六回共同研究会 二十世紀日中人文科学研究の再考察 増田渉の鲁迅紹介——古典研究と現代研究との間（増田渉的鲁迅介绍：古典研究与现代研究之间） 発表者 鈴木将久 東京大学 司会 趙京華 北京第二外国语学院 日中戦間期における周作人の儒家思想と漢文学の伝統の再構築（中日战争期间周作人对儒家思想及汉文学传统的再造） 発表者 袁一丹 北京大学 司会 唐文明 清华大学 中国哲学はいかにして作るのか——内田周平と井上哲次郎との論争を手掛かりに（究竟该如何做中国哲学：以内田周平和井上哲次郎的交锋为线索） 発表者 曹峰 中国人民大学 司会 王頌 北京大学 吉野作造の中国論の再検討（吉野作造中国论的再检讨） 発表者 福家崇洋 京都大学 司会 唐利国 北京大学 社会学から内藤湖南の章学誠論を見る（从社会学看内藤湖南的章学诚论） 発表者 凌鵬 北京大学 司会 賀

雷 中国社会科学院 章太炎と京都学派の仏教哲学（章太炎与京都学派的佛教哲学） 発表者 廖欽彬 中山大学 司会 唐永亮 中国社会科学院 総合討議
司会 鄭開 北京大学 コメンテーター 趙京華 北京第二外国語学院 コメンテ
ーター 唐文明 清華大学 コメンテーター 王頌 北京大学 コメンテーター 唐
利国 北京大学 コメンテーター 唐永亮 中国社会科学院 コメンテーター
賀雷 中国社会科学院

2024.5.10 第七回共同研究会 九鬼周造と哲学的ナショナリズム——〈翻訳〉の視点から 発
表者 亀井大輔 立命館大学 司会 安部浩 京都大学人間・環境学研究科 読書会：
服部健二『自然史の思想と実践的直観—梯明秀と田辺・西田哲学—』 全体の
主旨、目的と第一章 司会 廖欽彬 中山大学哲学系 司会 福家崇洋 京都大学人
文科学研究所 第二章 発表者 黄志博 京都大学人間・環境学研究科 第三章 発表
者 孫彬 中山大学哲学系 第四、五章 発表者 渡辺恭彦 大阪産業大学経済学部経
済学科

2024.7.27 第八回共同研究会 東アジアの視座から幸徳秋水の思想世界を再考する——『廿
世紀之怪物帝国主義』中国語新訳の刊行にあたって 発表者 趙京華 北京第二外
国語学院 司会 廖欽彬 中山大学哲学系 初期社会主義のグローバル・ヒストリ
ーに向けて 発表者 梅森直之 早稲田大学 司会 福家崇洋 京都大学人文科学研
究所 古香：書画雅集 発表者 朱天曙 北京語言大学 通訳 発表者 朱湾 ashion
Communication and Management, University of the Arts London

2024.9.13 第九回共同研究会 戸坂潤と哲学の現実諸形態 発表者 田畑稔 大阪経済大学
司会 福家崇洋 京都大学人文科学研究所 アナーキズムとフェミニズム 発表者
田中ひかる 明治大学 司会 渡辺恭彦 大阪産業大学 東アジア的な心の理論：西
田幾多郎と牟宗三 発表者 朝倉友海 東京大学 司会 廖欽彬 中山大学

2024.10.11 第十回共同研究会 日中戦争期の中国知識人の対日協力思想について 発表者
村田雄二郎 同志社大学 司会 石川禎浩 京都大学 皇国から立憲国家へー「神
武創業」の帰趨ー 発表者 瀧井一博 国際日本文化研究センター 司会 福家崇
洋 京都大学人文科学研究所 「プロレタリア文化活動時代」から「水産時代」
へー船山信一の前中期思想ー 発表者 張政遠 東京大学 司会 廖欽彬 中山大
学

2025.1.25 第十一回共同研究会 西田幾多郎没後八十周年記念シンポジウム 精神病理学と
哲学のあいだー西田幾多郎と木村敏 発表者 藤田正勝 京都大学 司会 嶺秀樹
関西学院大学 終末期ケアのパラダイム転換と西田幾多郎の終末論ーエンドオブ
ライフケア成立の背景 発表者 浅見洋 西田幾多郎記念哲学館 司会 福家崇洋
京都大学人文科学研究所 物来りて何を照らすか？ー西田哲学と「もの」の現在
発表者 杉村靖彦 京都大学 司会 秋富克哉 京都工芸繊維大学 西田幾多郎と経
済学 発表者 福家崇洋 京都大学 惨劇の遺族を取材する意味ー西田哲学を通し

て考える 発表者 広瀬一隆 京都府立医科大学・京都新聞 AI 西田幾多郎について 発表者 張政遠 東京大学 西田幾多郎の場所論とメディア、AI 発表者 廖欽彬 中山大学 司会 浅見洋 西田幾多郎記念哲学館 芸道・武道における永遠の今の自己限定の体験 発表者 フォンガロ・エンリコ 南山大学 司会 杉村靖彦 京都大学 ニヒリズムと宗教—西田幾多郎と西谷啓治のドストエフスキー解釈をめぐって 発表者 太田裕信 愛媛大学 司会 フォンガロ・エンリコ 南山大学 西田幾多郎新資料研究の現在 中嶋優太 石川県立看護大学 司会 太田裕信 愛媛大学 東アジア哲学における二つの形而上学—西田幾多郎の「実在」と熊十力の「実体」について 発表者 郭旻錫 京都大学 司会 広瀬一隆 京都府立医科大学・京都新聞 総合討議 コメンテーター 嶺秀樹 関西学院大学 コメンテーター 秋富克哉 京都工芸繊維大学 司会 廖欽彬 中山大学

2025.2.1 第十二回共同研究会 洋行者漱石の文明開化との苦闘と回帰昇華 発表者 曾秋桂 淡江大学 司会 福家崇洋 京都大学人文科学研究所

2025.2.19 第十三回共同研究会 中華の中心と周辺：梁啓超と朴殷植の分かれ道 発表者 李恵京 ソウル大学 司会 福家崇洋 京都大学人文科学研究所 朱謙之の歴史哲学とその日本との関係：一つの知識社会学のモデルに基いて（朱謙之的历史哲学及与日本的渊源：一个基于知识社会学的范式） 発表者 楊小剛 中山大学 司会 亀井大輔 立命館大学

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

福家崇洋、石川禎浩、ロマリク・ジャネル、呉孟晋

学内

出口康夫(文学研究科)、上原麻有子(文学研究科)、カクミンソク(人間・環境学研究科)、張潔(文学研究科)、安部浩(人間・環境学研究科)、Niels VAN STEENPAAL(教育学研究科)

学外

廖欽彬(中山大学哲学系)、鈴木 将久(東京大学大学院人文社会系研究科)、張政遠(東京大学大学院総合文化研究科)、秋富克哉(京都工芸繊維大学基礎科学系)、植村和秀(京都産業大学法学部)、渡辺恭彦(大阪産業大学)、久野譲太郎(同志社大学)、伊東貴之(総合研究大学院大学文化科学研究科)、蘇文博(総合研究大学院大学文化科学研究科)、王頌(北京大学哲学系宗教学系)、唐文明(清華大学哲学系)、張偉(中山大学哲学系)、盛福剛(武漢大学哲学学院)、朱天曙(北京大学美学与美育研究中心)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	2	9 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	12 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)
国立大学 (内女性)	2	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学 (内女性)	1	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学 (内女性)	5	13 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	21 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	0	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	9	23 (5)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (1)	35 (6)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (3)
その他 ※ (内女性)	1	11 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	77 (30)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	21	69 (10)	2 (0)	0 (0)	4 (0)	4 (1)	172 (36)	2 (0)	0 (0)	4 (0)	6 (3)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	23		3	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	3	(0)	1	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載 論文数	掲載 年月	論文名	発表者名
1	동아시아와 시민 (東亜和市民) 5号	1	2024.4	東アジアにおけるサバルタンの構造——台湾植民地時代の知識人・楊杏庭を中心に	廖欽彬
2	広西大学学報(哲学社会科学版) 2024年第4期	1	2024.4	東亜哲学成立的可能性	廖欽彬
3	京都大学大学文書館だより 第46号	1	2024.4	ハイデルベルク大学に学んだ初期の京大教員たち	久野譲太郎
4	政治思想研究 24号	1	2024.5	恒藤法理学における「新カント派」受容の理路ー「法の理念」をめぐってー	久野譲太郎
5	中国年鑑二〇二四	1	2024.5	(動向) 美術	呉 孟晋
6	文化与伝播 2024 年第6期	1	2024.6	京都学派与現象学	廖欽彬
7	人文学報 122号	1	2024.6	戦後歴史学の明暗 渡部徹と社会・労働運動史研究	福家崇洋
8	日本思想史学	1	2024.6	提言 思想史の森で彷徨うために『思想史講義』の試みから	福家崇洋
9	人文学報 122号	1	2024.6	宮崎家所蔵宮崎龍介関係資料目録	福家崇洋
10	人文学報 122号	1	2024.6	新村猛「佐々木時雄弔辞」	福家崇洋
11	人文学報 122号	1	2024.6	京都地方労働組合総評議会(京都総評)関係資料目録	福家崇洋
12	人文学報 122号	1	2024.6	新村猛関係資料目録	奥村旅人, 須永哲思, 福家崇洋, 藤野志織
13	人文学報 122号	1	2024.6	京都勤労者学園京都人文学園関係資料目録	奥村旅人, 須永哲思, 福家崇洋

14	学問で平和はつくれるか？ 京都大学大学院人間・環境学研究科編	1	2024.6	世代間正義の哲学—＜近代の内破＞という課題	安部浩
15	人文学報 122 号	1	2024.6	山内得立（1890-1982 年）の哲学——東西思想の包括的乗り越えの試み—	Romaric JANNEL
16	20 世紀中国史の資料的復元 石川禎浩編	1	2024.7	若干の歴史問題に関する決議の資料的復元に向けて：毛沢東の講話「ボリシェヴィキ化 12 カ条について」解析	石川禎浩
17	The Sinosphere and Beyond: Essays in Honor of Joshua Fogel	1	2024.7	Living as a Cog in the Party Organization: A Revolutionary Way of Life in 1940s China,	石川禎浩
18	中国——社会と文化 39 号	1	2024.7	毛沢東——革命のカリスマと詩の力	石川禎浩
19	日本史の現在 6 近現代 2 鈴木淳・山口輝臣・沼尻晃伸編	1	2024.7	日本における共産主義運動	福家崇洋
20	石川禎浩編『20 世紀中国史の資料的復元』（京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター研究報告）京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター	1	2024.7	昭和二年の溥儒の来日について	呉 孟晋
21	求真 第 29 号	1	2024.8	未完成の論理——田辺元と下村寅太郎の思想的連関	廖欽彬
22	求真 第 29 号	1	2024.8	翻訳 劉森林「物化から虚無へ——マルクス、ニーチェおよびその	廖欽彬

				中国への示唆	
23	earbook for Eastern and Western Philosophy Vol. 7, edited by Hiroshi Abe et al., De Gruyter, Berlin	1	2024.8	A Japanese Perspective of the Mind-Body-Land Connection,	安部浩
24	求真 第 29 号	1	2024.8	西田幾多郎と鈴木大拙の思想における「即」・「即非」概念の差異に関する一考察	Romaric JANNEL
25	武蔵大学総合研究機構	1	2024.9	伝統中国の政治思想と日本——古代から近世まで／比較史的・比較思想的考察	伊東貴之
26	図書新聞 3656 号	1	2024.9	老北京（ラオ・ベイジン）の記憶と傷痕——老舎における満洲人性と普遍性／書評『私のこの生涯——老舎中短編小説集』（関根謙・杉野元子・松倉梨恵訳、平凡社）	伊東貴之
27	中国近現代美術留学史料与研究研讨会论文集 中国芸術研究院美術研究所編	1	2024.9	欣賞中国現代主義絵画的日本人：閲読中華独立美術協會的日文展評	呉 孟晋
28	南国学術 第十四卷第三期	1	2024.9	増田涉魯迅訳介の学術史意義	鈴木将久
29	Environmental Values online	1	2024.9	Environmental philosophy in Asia: Between eco-orientalism and ecological nationalisms	Romaric JANNEL <u>Lařna</u> <u>Droz</u> 、 <u>Orika</u> <u>Komatsuba</u> <u>ra</u>

30	Phenomenology and Future Generations. Generativity, Justice and Amor Mundi, edited by Matthias Fritsch, Ferdinando G. Menga and Rebecca van der Post, SUNY Press, Albany	1	2024.10	Jonasian Grounding of Future-Oriented Responsibility and the Idea of the Human	安部浩
31	中間派無産政党 機関紙集『日本 労農新聞』『日本 大衆新聞』『全国 大衆新聞』『全国 労農大衆新聞』 別冊	1	2024.11	「中間派」無産政党と機関紙発行 事業	福家崇洋
32	文化史学 80号	1	2024.11	書評 小宮正安『エリザベートと 黄昏のハプスブルク帝国』（創元 社、二〇二三年）－「近代的個 人」の誕生をめぐるもうひとつの 物語－	久野譲太郎
33	『アジア遊学』 第299号（特 集：近代日本の 中国学：その光 と影） 朱琳・ 渡辺健哉編著	1	2024.11	近代漢学者の墨戯：長尾雨山が描 いた絵画をめぐる	呉 孟晋
34	尊厳概念の転移 小島毅・加藤泰 史編	1	2024.12	朴鍾鴻哲学の創造的人間観におけ る尊厳の問題	郭旻錫
35	比較文明 第40 号	1	2024.12	関係性のメカニズムとしての文明 （特集 超越するレガシー＝伊東 順太郎）	郭旻錫

36	文化と伝播 第13巻第6期、総第78期	1	2024.12	从田边元来看日本最初对海德格尔哲学的接受」(「田辺元による日本における最初のハイデガー受容」、孫彬訳)	藤田正勝
37	現代儒学 第15期	1	2024.12	東亜“家礼学”研究的新起点——談《東亜<家礼>文献汇编》的學術價值	伊東貴之
38	図書新聞 3668号	1	2024.12	台湾海峡、波高し——中国語圏文学の翻訳・中国研究は堅調に推移	伊東貴之
39	『美術フォーラム 21』第50号 (特集 日本画のトポグラフィー)	1	2024.12	「国画」の名のもとに：民国期広東の国画研究会における中国画の伝統と革新	呉 孟晋
40	思想 51	1	2024.12	現実与理念的弁証法：読楊儒賓『思考中華民国』	鈴木将久
41	芸術と社会：近代における創造活動の諸相 高階絵里加・竹内幸絵編	1	2025.1	中国の「新興絵画」と社会、そして戦争：『美術雑誌』にみる何鉄華のモダニズム芸術理論について	呉 孟晋
42	近現代中国の制度とモデル 村上衛・田口宏二郎・木越義則編	1	2025.1	戦後台湾の抽象絵画をめぐる「制度」的言説：『聯合報』にみる五月画会と東方画会の展覧会について	呉 孟晋
43	コメント通信 第54号	1	2025.1	東アジアの近代を美術でたどるには	呉 孟晋
44	京大広報 第778号	1	2025.1	(洛書) 聖アントニウスの誘惑	呉 孟晋
45	The Dialectics of Absolute Nothingness. The Legacies of German Philosophy in the Kyoto School,	1	2025.2	The Dialectic of Absolute Emptiness: Revising Watsuji's Engagement with Hegel	安部浩

	edited by Gregory S. Moss and Takeshi Morisato, Cornell University Press, Ithaca and London				
46	Bulletin de la Société des Amis de Paul Mus	1	2025.2	Variété des regards : autour des deux poèmes japonais de Paul Mus (1963)	Romaric JANNEL
47	京都大学大学文 書館研究紀要	1	2025.3	高坂正顕の大学論（中）－「期待 される人間像」を経て－	渡辺恭彦
48	〈無常〉の変相 と未来観――そ の視界と国際比 較 荒木浩編	1	2025.3	戦後の近代超克論――唐木順三の 無常を手掛かりに	廖欽彬
49	河上肇記念会会 報	1	2025.3	河上肇と無産政治運動	福家崇洋
50	思想 2025 年第 3 号	1	2025.3	「中国とは何か」を共に問うため に	鈴木将久 中島隆博 石井剛

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行 年月	出版社名	国際 共著
1	중국공산당, 그 100 년 : 천두슈부터 시진핑까지 초거대 집권당의 여정과 그 속성』(中 国共産党、その百年：陳独秀か ら習近平までの超巨大執権党の 旅程とその属性)	이시카와 요시히로 (石川禎 浩) 著, 강진아 (姜 振亞) 訳, KANG, Jin-A 訳	2024.4	TOBE books	
2	20 世紀中国史の資料的復元	石川禎浩編	2024.7	人文科学研究所	

12. 本年度博士学位を取得した学生の数

なし

13. 次年度の研究実施計画

次年度は今年度と同様に通常の研究班運営を試みながら、一般にも開かれた規模の大きめの研究会を実施していく予定である。すでに 12～19 回の開催と報告を担当する講師が決定している。次年度は専門研究者の招聘も引き続き予定しているが、基本的には班員を中心とした講師の報告によって研究班を開催する。とくに哲学と関わりの深い芸術や宗教に関するテーマを設定し、全体像を意識してテーマに幅をもたせることを考えている。次年度は最終年度に該当するため、研究報告とあわせて、成果論文集のとりまとめも考えながら研究班を運営していく。

14. 次年度の経費

		開催回数	延べ人数	支出予定額（円）
国内旅費	一般旅費			
	招へい旅費	1	5人	140000
海外旅費	一般旅費	1		100000
	招へい旅費	3		500000
謝金（講演謝金、研究協力者金、その他の謝金）				230000
消耗品等経費				20000
その他				
合計				990000

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

次年度は本研究班の最終年度にあたるため、通常通りの研究班の運営に加えて論文集の刊行に向けて成果をとりまとめるための準備を行いたい。すでに出版社は決定し、企画も通っているため、あとは論文収集と編集作業を実施していく予定である。あわせて田辺元生誕 140 周年記念シンポジウム及び西田幾多郎没後八十周年記念シンポジウムの成果論集のとりまとめも予定している。